日本胸部外科学会 NEWSLETTER

JUST NOW JATS

CHALLENGE FOR THE FUTURE

1.3.5.7.9月発行

2017
41
September

CONTENTS

- 第70回日本胸部外科学会定期学術集会… 1面
- チーム医療、趣味でツナガル胸部外科医 …… 2面
- 女性医師の立場から、若手医師の立場から…… 3面
- 第4回理事会ニュース、優秀論文受賞者一覧
  フェローシップ受賞者一覧、
  みんなでとろうIF …… 4～5面
- 総会案内、会員証と学術集会参加登録、
  ネクタイ販売、追悼、編集後記 …… 6面

第70回 The 70th Annual Scientific Meeting of the Japanese Association for Thoracic Surgery
日本胸部外科学会定期学術集会開催にあたって

BOYS, BE AMBITIOUS! BUT STAY HUMBLE

会長：松居 喜郎（北海道大学循環器・呼吸器外科）

　このたび第70回日本胸部外科学会定期学術集会を札幌にて開催させていただくこととなりました。私はじめ、北海道大学大学院医学研究科循環器・呼吸器外科学教室にとりましては、大変光栄なことであり厚く御礼申し上げます。北海道における本会の開催は、北海道大学としては第25回（昭和47年）故杉江三郎先生以来45年ぶり、北海道としましても第46回（平成5年）札幌医科大学の小松作蔵先生、第57回（平成16年）安倍十三夫先生以来13年ぶりになります。

　会期は北海道の季節を考慮して本会は2017年（平成29年）9月27日から29日の3日間、前日の26日はPGCの一部、評議員会といたしました。会場はロイトン札幌・さっぽろ芸術文化の館を使用します。隣り合わせの会場ですので、天気にも左右されないと思います。

　テーマは、“Boys, be ambitious! But stay humble”としました。有名な北海道大学のWilliam Smith Clark（1826-1886）博士が言った言葉に、“But stay humble”を加えさせていただきました。彼は“Boys, be ambitious!”につづいて、“少年よ、大志を抱け！金や私欲のためではなく、名声などと呼ばれる空しいものでもなく。人間として当然持つべきもののために大志を抱け。”といわれています。私の好きな言葉で、密かに学会の時のテーマとして温めポスターにも使わせていただきました。

　われわれは不完全な科学である医学を学ぶものとして、また特に患者を傷つけることも可能な外科医として、常に謙虚でなければならないと思っています。最高の治療を行うのがわれわれの夢ですが、最高の治療と自ら思い込んでしまうことが、最もおそろしいことであり、常に自分のやった外科治療に客観的に評価を続けることが重要と考えているからです。自らに課す重いテーマだと考えています。

　本学術集会では、三好前会長に従い会員数や学会の将来性を考慮し、原則心臓４：呼吸器２：食道１の配分にセッション数を設定のうえ、シンポジウム、パネルディスカッション、会長要望演題をプログラム委員会で提案していただきました。幸い、われわれは心臓血管外科と呼吸器外科の複合集団であり、わが教室の前身である北海道大学第2外科には食道外科部門があり、北海道大学全体でプログラム編成の中心的役割ができたと自負しています。分野ごとの中心人物がわかるように、HPには呼吸器外科分野は加賀基知三、食道外科分野は同門の七戸　俊明からのご挨拶も掲載させていただきました。プログラム編成にご協力いただいた諸先生に深謝いたします。

　今回は日本胸部外科学会70回記念ということで、学会1日目には、田邊達三北海道大学名誉教授と、私のフランス留学時代のボスDaniel Y Loisance先生に胸部外科の歴史の講義をいただき、午後からはAATSを代表してThoralf M. Sundt、EACTSを代表してJose L. Pomar、JATSを代表して大北　裕理事長に、胸部外科医の将来への展望につきご討論いただく企画を設けました。また今回は私の要望で、ビデオセッションを学会2日目28日午後に集約しSurgical Technique Sessionと称して開催することにしました。発表者は術者のみとし、壇上にスペシャリストに登壇していただき討論を深める企画です。手術手技に関する活発な討論を期待しています。またポスター演題も広い会場を用意し、ハンズオンセッションも６企画用意しました。会場にはWiFi環境を整備し、例年通り抄録集の印刷はいたしません。幸い1642題の多数の演題応募をいただきました。厳正な査読の結果、すばらしい演題が多い中採択率は概ね70%程度となりました。

　海外からの招請講演者は、心臓領域ではMiamiでinterventional cardiologisitをやられているEduardo de Marchena（USA）先生、呼吸器外科分野ではScott J. Swanson（USA）先生にお願いしています。他には心臓・大血管領域では、Patrick Perier（Germany）、Mohamad Bashir（UK）、Leo A. Bockeria（Russia）、Cristian Brizard（Australia）、Kuan-Ming Chiu（Taiwan）、Taweesak Chotivatanapong（Thailand）、Anthony P. Furnary（USA）、Thomas G. Gleason（USA）、Morten Helvind（Denmark）、Michiaki Imamura（USA）、Robert J M. Klautz（Netherlands）、Artur Lichtenberg（Germany）、Jaroslav Lindner（Czech Republic）、Lorenzo A. Menicanti（Italy）、Simon C. Moten（Australia）、Yoshifumi Naka（USA）、Preventza Ourania（USA）、Davide Pacini（Italy）、Meindert Palmen（Netherlands）、Olivier Raisky（France）、J. Scott Rankin（USA）、Marc Ruel（Canada）、Rakesh Uppal（UK）、Grayson H. Wheatley（USA）、呼吸器領域では、Joseph S Friedberg（USA）、Diego G Rivas（Spain）、Kazuhiro Yasufuku（Canada）、Thomas Waddell（Canada）、食道領域ではSimon Law（Hong Kong）、Chinnusamy Palanivelu（India）と多数の先生をお呼びしています。各先生には、ほぼすべての上級演題に基調講演をしていただき討論に参加していただく構成としました。前述のSurgical Technique Sessionにも参加していただきます。

　私にとってのこの学会のもうひとつのテーマは”We love Hokkaido.”です。学会時期は、気候も良く、食材にもめぐまれる、すばらしい季節です。学会内でも北海道の雰囲気をなるべく伝えようと思っています。学会は金曜日に終了します。時間が許せば、ぜひその後も北海道をenjoyしていただきたいと思います。皆様の多数のご参加をお待ちしています。

松居 喜郎
所属：北海道大学循環器・呼吸器外科
卒業大学：北海道大学 1980 年卒業
経歴：北海道大学第２外科入局。
Paris 第 12 大学 Henri Mondor 病院、Mayo Clinic 留学、
NTT 東日本札幌病院、東京池上総合病院を経て 2006 年より現職
趣味：Jazz 鑑賞
好きな言葉：面白きこともなき世を面白く　住みなすものは心なりけり

特定非営利活動法人日本胸部外科学会
The Japanese Association for Thoracic Surgery
http://www.jpats.org/

チーム医療推進委員会特別企画

『周術期管理におけるチーム医療』

座長：志水 秀行（慶應義塾大学 心臓血管外科）　**益田 宗孝**（横浜市立大学 外科治療学）

第70回日本胸部外科学会定期学術集会 松居喜郎会長のご高配により、チーム医療推進委員会の特別企画“周術期管理におけるチーム医療”を開催させて頂くこととなりました。

周術期管理が外科治療においてきわめて重要な役割を果たしていることは、いまさら言うまでもありません。外科医が自ら執刀した患者さんに対して責任を持って治療を行うことは当然ですが、一方で、周術期管理を成功させるためには一人の力に頼るのではなく、専門性の高い知識や優れた技術をフル稼働させるべきであり、専門分野や職種が多岐にわたる人々が一定の方向性をもったチームとして結集することが必要となります。

複数の専門家がチームとしての力を発揮させるためには、各メンバーの役割と責任を明確化し、迅速で正確な情報共有の方法や治療方針の決定プロセスのルール作りなどシステム設計をうまく行うことが必要であるとともに、一人一人が自分の仕事に誇りと責任を持って強い信頼関係の中で最高の医療を提供しようというモチベーションを持てる環境作りも重要と思われます。

2015年10月に“特定行為に係る看護師の研修制度”が開始されましたが、特定行為研修を行う指定研修機関や研修修了者の数は予定を大幅に下回っているという厳しい現実が明らかになっています。しかし、医療の質、安全性、効率性の向上を考えると、個々の医療従事者の業務負担を最適化して、同じ水準の能力や価値観を共有できることを前提とした看護師など他職種との間でタスク・シフティング（業務の移管）やタスク・シェアリング（業務の共同化）を推進することも検討すべき課題と思われます。

このような状況の中で、さまざまな工夫と努力によって周術期管理における高いレベルのチーム医療を実践されている施設の先生方に現状と課題をご講演頂き、会員の先生方とともに今後の周術期管理のあり方、チーム医療のあり方を考えようという趣旨の企画です。

まず、日本麻酔科学会前理事長で九州大学 麻酔・蘇生学教授の外 須美夫先生に“周術期管理チーム”というタイトルで基調講演をして頂きます。続いて、高木靖先生（藤田保健衛生大学心臓血管外科）、則末泰博先生（東京ベイ・浦安市川医療センター集中治療科）、吉田実知先生（東邦大学ICU看護師長）に、それぞれ“周術期管理チームにおける特定看護師の役割”、“心臓血管外科医と非心臓血管外科術後担当医の軋轢改善への提言”、“当院周術期センターの現状”というタイトルでご講演頂きます。演者の先生方は麻酔科、心臓血管外科、集中治療科、ICU看護師長とさまざまな立場のエキスパートであり、それぞれユニークな周術期管理チームをご紹介頂きます。この企画を通じて、皆様と共にチーム医療の将来像を考えるステップにできればと考えています。

日時は学会初日（9月27日、水曜日）朝8時30分から、場所はロイトン札幌2Fリージェントホールです。多数の先生方のご参加をお待ちしております。

学術集会1日目

2017 9/27（水）
8:30〜10:00
ロイトン札幌 2F リージェントホール

基調講演

『周術期管理チーム』
外 須美夫
日本麻酔科学会前理事長 九州大学 麻酔・蘇生学教授

演者1

『周術期管理チームにおける特定看護師の役割』
高木　靖
藤田保健衛生大学 心臓血管外科 主任教授

演者2

『心臓血管外科医と非心臓血管外科術後担当医の軋轢改善への提言』
則末 泰博
東京ベイ・浦安市川医療センター 集中治療科

演者3

『当院周術期センターの現状』
吉田 実知
東邦大学ICU 看護師長

趣味でツナガル胸部外科医

JATSRFC 日本胸部外科学会ラグビーフットボールクラブ

Japanese Association for Thoracic Surgery Rugby football Club

今回ご紹介するJATSRFCは20数年前に、一度の人生で選んだ仕事（胸部外科医）も好きなスポーツ（ラグビー）も一緒の仲間が集まればきっと楽しい会になるだろうという事で自然発生的に始まった純粋な親睦の会です。現在、会員数は160人を超えています。この会員数と6年制とは言え一学年100人前後の学生数で女子学生も増えている中で今でも多数の後輩が西医体、東医体や各地の医歯薬リーグ、あるいは地方のリーグ戦で試合に臨んでいる事実はOne for all, All for oneのラグビー精神が医療にも通ずる面が大きいからではないかと思われます。本クラブの初代会長は丸山浩一先生（現西東京市長）、二代目小原邦義先生、そして現会長は上田裕一先生です。クラブタイ〔写真1：ジャパンの桜のエンブレムに赤の心臓にゴールドのメス（大北裕先生デザイン）〕に続き、ジャージを作ろうという話もありますが、今のところ試合をしようという話は出ていません。毎年、秋の胸部外科学会学術総会に合わせてスペシャルゲストをお呼びして例会を行っています。これまでにご参加いただいたゲストは、故上田昭夫氏、大西一平氏、ロシナンテス代表川原尚行先生、清宮克幸氏、故近藤　哲先生、坂田好弘氏、故宿澤広朗氏、谷藤尚之氏、林敏之氏、春口　廣氏、廣瀬俊朗氏、村上晃一氏、森　重隆氏、日本医師会長横倉義武先生、吉雄潤氏、吉野俊郎氏（五十音順）などです。最近2年の写真にあるように多数の参加で盛り上がっています。こうした飲み会だけでなく胸部外科医として皆さんご活躍ですし、宿澤孝太先生のようにEngland Rugby協会のICIS（Immediate Care in Sports）という資格をとってW杯2019 in JapanでHIA（Head Injury Assessment）などで活躍が期待される先生もいらっしゃいます。今年の札幌での学会時にも9月28日の夜に、日本ラグビーフットボール協会の若きGMの岩渕健輔氏をお招きしての例会を計画しています。入会、会員紹介、例会参加などお問い合わせはrugbysurgeon@gmail.comにご連絡ください。　（文責：西田 博）

写真1　クラブタイ

写真2　2016年例会（岡山）：廣瀬俊朗氏にW杯2015でのジャパンの活躍における「準備」の重要性をお聞きしました。将来の胸部外科医、川崎医大ラグビー部の部員も多数参加しました。

写真3　2015年例会（神戸）：南アフリカ撃破などW杯2015年のジャパンの活躍の余韻も冷めやらぬ中、第一回ラグビーW杯の主将だった林敏之氏をお招きし最高潮の盛り上がりでした。

女性医師の立場から

小児心臓外科医への道

確立していない治療法に対して工夫の余地があるなど大変やりがいのある興味深い分野

ポリクリで外科が楽しく、具体的な目標もないまま複数の選択肢がある第二外科に入局しました。研修医時代は何をやっていても楽しく、ただ睡魔に弱く心臓外科は無理だろうと言われていました。消化器外科、小児外科を研修し、やはり心臓外科も経験したいと希望して兵庫県立姫路循環器病センターに勤務させてもらいました。「前立ちの順手サイドは前立に縫わせる」という指導法で早くから手術経験を積ませてもらいました。当時の上司が内胸動脈を超音波メスで採取するという方法の有効性、安全性を実験でも実証して全国に普及させられたのを間近で見て心臓血管外科の楽しさを一層実感しました。途中、渡米や、大学病院勤務も経て、卒後12年目に大北裕教授から「先天性も勉強しておく必要がある。」と助言頂き、兵庫県立こども病院に赴任しました。あまりの違いにカンファレンスも聞き取れず挫折感も大きかったですが次第にその魅力にとりつかれました。一例一例にあらゆる選択肢と危険性と対処方法をとことん考えないといけないけれど、考えたことが結果を左右することがあること、まだまだ確立していない治療法に対して工夫の余地があるなど大変やりがいのある興味深い分野です。時に辛く悔しい思いもしますが、重症だった赤ちゃんが元気な姿を見せてくれるのは大きな喜びです。大嶋義博先生の忍耐強いご指導とこの分野に巡り合わせて頂いた医局に感謝しています。最近女性医師ネットワークも充実し、臨床のこと（臨床外の事も…）について他施設の情報を聞き、時に励みに、時に憩いになっています。小児心臓外科の道は険しく医者23年目で道半ばですが、1年前に兵庫県の西の拠点となるべく加古川中央市民病院の心臓血管外科に小児部門を立ち上げました。大保英文先生には姫路時代に引き続き再び大変お世話になっており、周囲に助けられながらですが総合病院の強みを生かして診療に、後輩育成に貢献したいと思っています。また私事ですが自身の子も3人産ませていただき休職したのは3人分を合わせて1年以下だったとは言え、医局員中心に多大なサポートがあったことに感謝の意を表します。

圓尾 文子
所属施設：加古川中央市民病院　心臓血管外科
卒業大学：神戸大学医学部

経歴：
1995年　神戸大学附属病院第２外科
1996年　兵庫県立淡路病院外科
1997年　愛仁会高槻病院小児外科
1998年　兵庫県立姫路循環器病センター心臓血管外科
1999年　Mayo clinic で visiting clinician, research trainee
2001年　兵庫県立姫路循環器病センター心臓血管外科
2004年　神戸大学附属病院心臓血管外科
2005年　兵庫県立姫路循環器病センター心臓血管外科
2007年　兵庫県立こども病院心臓血管外科
2016年　加古川中央市民病院心臓血管外科

趣味：食べること、最近読書
好きな言葉：正対

どうして心臓外科を選んだのですか？

女性医師が一人でも多く外科を選択し活躍されることを期待

「どうして心臓外科を選んだのですか？」とよく聞かれますが、「どうして医師になろうと思ったのですか？」とはあまり聞かれません。私が医師になろうと思ったのは、幼少時に体が弱かったことが影響しています。小学生1年生の、明日から冬休みという日に入院し、数か月の入院生活を送る間、北里柴三郎先生やキュリー夫人の伝記に感銘を受け医師を志しました。小学校では制限が多く、体育はいつも見学で、運動は大の苦手でした。中学入学と同時に運動を許可され、仲の良い友達と一緒にバドミントン部に入部しました。その後、逆上がりも逆立ちもできないままでしたが、運動部の活発な大阪医科大学に入学し、学園祭でのクラブ対抗リレーで初めて競走しました。そのリレーで他の女学生を次々と抜いた瞬間のことは今でも忘れられません。「私でも、医学部であれば運動部でやっていける。」これは私の人生において大きな発見でした。部活で体力をつけながら、本業の医学部の授業では生化学と生理学がとてもおもしろく、臨床を学んでも「人体はブラックボックスだ。中の仕組みが知りたい。」と思いました。

最終的に私が心臓血管外科を選択した理由は2つあり、心筋保護・再生への興味と、外科における男女医師数の偏りです。患者さんは外科であってもほぼ半数が女性であるため、ある程度の女性医師がいた方が良いと思います。私が入局した当時、医局には女性医師が2名おられ、彼女たちの存在がなければ入局はしなかったと思います。昨年12月に米国で発表されたデータによると、急性期医療で女性医師が担当した患者の死亡率が男性が担当した場合よりも約5％も低かったと報告されました。その明確な理由の解明には今後の研究が必要ですが、女性医師にとってはなんと勇気づけられるデータでしょうか。私がそうであったように、私たちの存在で後進の女性医師が一人でも多く外科を選択し活躍されることを期待しています。

神吉 佐智子
所属：大阪医科大学　外科学講座胸部外科学教室（心臓血管外科）
卒業大学：大阪医科大学

経歴：
大阪教育大学教育学部附属小・中・高校卒業
1999年　大阪医科大学胸部外科入局（心臓血管外科専攻）
2005年　大阪医科大学大学院修了（医学博士）、大阪医科大学助教（任期付）
2007年　米国 Brigham and Women's Hospital/Harvard Medical School Research fellow
2010年　帰国後から現職の大阪医科大学胸部外科学教室助教（心臓血管外科）

趣味：海外旅行、語学習得、美術品蒐集、山歩き
好きな言葉：「為せば成る、為さねば成らぬ何事も―“Where there is a will, there is a way”」

若手医師の立場から

専門医を取得されている、もしくは取得を目指す若手の先生方に、日々感じていること、将来の目標などを語っていただきました

大成功はなくても、大失敗をしない

荒川 衛　練馬光が丘病院 心臓血管外科

医師免許を取得して10年が経ちました。私のこれまでの歩みの特徴は、出身大学ではない大学に入局したことに始まり、いち早く心臓血管外科に入局したのに、基礎研究を約4年間行なった、開心術は当初、ヤギがほとんどだったなどが挙げられます。色々な話をいただいて、自分で良いと思うのも全て飛びついた結果、異色の経歴があると思っております。

新しいところに何度も飛び込んだ10年間で、様々な苦労がありました。10年間を振り返ると、苦労はしたが大成功はしていないなと感じています。ただ、大失敗もしなかったとも思います。

スタンフォード大学に留学していた際に、シリコンバレーの空気に触れました。「失敗を恐れず、大成功を求める。」その先に、Innovationがあり、多くの企業が大成しています。様々な成功体験を聞くと、シリコンバレーで起こるような大成功に憧れました。その一方、日本ではあまりベンチャー企業が育ちませんが、その理由の一つに、日本には失敗を許さない文化があることが挙げられます。

私たちが日々取り組んでいる手術ももちろん失敗が許されません。「私、失敗しないので」で有名なドクターXが高視聴率であったのも、そんな背景が要因になっているかもしれません。しかし、最近の安全管理の概念は、人間は失敗するからその被害を最小限にしようという考え方に基づいています。振り返ると、舞い上がってしまったり、力が入り過ぎてしまったり、忘れることがあったり、そのような経験を数多くしたのも事実です。

今の臨床の現場で一番大事にしていることが、「大成功はなくても、大失敗をしない」ようにすることです。洗練された手技を身につけ、症例の特徴を把握して、繰り返しイメージする。それは誰でも実践していると思いますが、私はそれに加えて、コメディカルとの事前打ち合わせ、指導医、助手に自分の力量を伝えるなど、他人の力を借りることにも重きを置いています。自分一人で大失敗へ落ち込んでいくのではなく、支えられて大失敗を防ぐことと考えれば、これも自分の力と考えていいのではないでしょうか。

若手に甘んじてはいけませんが、自分が一番上の立場になったとしても、常に今いるメンバー総合の力で、手術を安全に行う方法を考えることは、一人前への道であると思っております。「手術は総合力」と考え、日々の臨床に望んでおります。

荒川　衛
所属施設：練馬光が丘病院　心臓血管外科
卒業大学：慶應義塾大学 2007年卒

2007年　栃木県済生会宇都宮病院　初期臨床研修医
2009年　自治医科大学附属さいたま医療センター　心臓血管外科
2011年　国立循環器病研究センター　人工臓器部　研究員
2013年　スタンフォード大学　胸部心臓外科　Postdoctoral Fellow
2015年　自治医科大学附属さいたま医療センター　心臓血管外科
2016年　練馬光が丘病院　心臓血管外科
（2016年　若手心臓外科医の会　代表世話人）

趣味：飛行機（マイル、撮影、自家用操縦士）
好きな言葉：従命、入りました。

1．各種委員会報告及び協議事項

（1）理事会

審議事項

1）名誉会長・名誉理事長・特別会員推薦の件

特別会員は、昨年定款施行細則が変更（年齢が65歳以上で評議員歴が15年以上）されたことに伴い本年の候補者名簿（25名）が提出され、推薦することが承認された。名誉会長候補者は、田林　晄一先生と髙本　眞一先生、名誉理事長は田林　晄一先生を推薦することが承認された。

2）70周年記念誌（掲載内容・執筆者・各種依頼文書・予算等）について

新田　隆会誌編集委員会副委員長を中心に来春の刊行を目途に作業を進めている70周年記念誌の内容について報告された。

3）第3回研究倫理教育研修会（日本医学雑誌編集者組織委員会、日本医学会利益相反委員会、日本医学会連合研究倫理委員会の主催）の研究倫理教育にかかる提案

各分科会は、研究倫理教育に関する学習機会の提供を行うとともに、会員の受講を必須化する、上記3委員会が提供する研究倫理教育のための教材と受講者の理解度測定・自己点検法の導入を行う、共通の研究倫理研修にかかる履修証明書を発行する、2020（平成32）年1月より施行するという内容である。

4）災害時ネットワークに関する九州地方会からの依頼の件

本会では、東日本大震災時に支援可能施設リストを作成しホームページに掲載した。現在、日本呼吸器外科学会でマニュアルを作成しているので、それを参考に同様のマニュアル作成を総務・渉外委員会で検討する。

5）2017年度委員会名簿について

学術委員会、総務・渉外委員会、J-MACS委員会、呼吸器外科専門医合同委員会委員に変更があり、本理事会でも承認された。

6）Bologna Aortic Symposiumの後援依頼の件

本理事会で後援することが承認された。

報告事項

1）役員立候補の案内

次期副会長、理事及び監事の立候補案内が提出された。締切日は8月7日（月）である。今回の各分野の理事改選数は心臓4名、肺2名、食道1名である。

2）理事長選出に関する件

今秋は理事長改選時期に当たり、理事による理事長候補者推薦作業が行われる。理事長候補者の推薦締切日は8月8日（火）である。

3）評議員会議事資料作成の件

評議員会資料作成までの日程が報告された。

4）2017年フェローシップ選考結果と留学調査について

最終的に2017年度フェローとして7名が選出されたことが報告された。

5）本会事務局の設備備品購入と配置換えと諸費用について

持ち回り審議の結果、承認され、購入・設置した。

（2）総合将来計画委員会

審議事項

1）新専門医制度への対応：胸部外科としての関与はどこまで可能か。

本会が「呼吸器外科専門医認定」に今後も関与していくには、本学術集会のあり方を呼吸器外科医にとって、より親近感と魅力あるものにしていくために、以下の提案がなされた。

学術集会会長は会の運営方針作成と自分の専門領域プログラムを担当し、自分の専門領域外の2分野については「副会長」2名を選出し、「副会長」が自分の専門分野のプログラムを担当する、上記により3分野の独立性が保たれ、且つ3分野の合同開催の態を形成できる、「副会長」職を設置することにより、より多くの先生が学会開催に関与することができ、選出方法は会長の所属地域から立候補を募り、当該分野でのリーダーシップを勘案し、理事会で選出する。

2）定款の再確認・修正及び適正履行について

現状では心臓外科の理事数が大多数となってしまうため、次期副会長は現在幹事で議決権はないが、この職を理事として、分野別理事数のバランスを図ることが提案された。この件に関しては、定款の中で次期副会長という次のポジションを約束したような役職名を付けることは定款14条3項の権利を縛ることに問題があるので、東京都の認証がおりないかもしれないと行政書士より指摘があった。

理事1名を増やすことで、分野ごとの理事数が極端な数にならないよう、定款は改訂せずに施行細則の変更で実施できるよう相談することで承認された。

また、施行細則第11条8項の補充の件の条文は「任期を残す理事が辞任した時、その後任として選任された理事の任期は、前任者の残任期間にて終了する」に変更する。

報告事項

1）短期海外留学、トラベルグラントの継続的な資金調達について

認定NPO法人、又は一般社団法人あるいは公益社団法人になることにより、寄付金が集めやすくなるとのことで政策・検討委員会で審議することが提案され、承認された。

2）GTCS特集号の今後の方針・計画について

会誌編集委員会内にワーキンググループを設置して検討することが依頼された。

3）学術集会の運営方法について

プログラムについては以下の2点を学術集会委員会で検討することが依頼された。①大枠の設定（招請講演も含めて）を過去の記録を参考にminimum requirementを文書化する。②学術集会プログラムの評価システムを構築する。

学術集会でのウェットラボの扱いについて研究・教育委員会にその検討（開催の是非、規模と内容、領域別範囲など）を依頼することが承認された。

4）地方会の在り方について

今後も継続的に地方会運営について検討するために、地方会あり方委員会は今後も存続させる。

5）定款の再確認・修正及び適正履行について

理事の任期は一期2年、再任は2回（計6年）までとなったが、連続でなくとも可とすること、及び監事の任期と定数、及び理事長・副理事長の任期も現状通りとすることが報告された。

6）領域別の資金援助（活動予算）：会員数に応じた支援事業

現状ではJACVSDに200万円の援助を行っているが、呼吸器外科系では肺癌登録合同委員会に援助の提案がだされ、領域ごとにその都度理事会で検討する。

7）Developing the Academic Surgeonの継続開催について

本会では研究・教育委員会で検討（開催の是非、心臓血管外科学会以外での必要性、方法、資金など）することが承認された。

8）災害時ネットワークの構築について

日本呼吸器外科学会では渉外・広報委員会が災害対策マニュアルを作成中であるので、それを参考に同様のマニュアル作りを本会総務・渉外委員会で検討することが提案され、承認された。

（3）政策検討委員会

法人化について、専門家を交えての委員会を開催予定である。

（4）専門医制度委員会

機構側は基盤学会の専門医制度を来年4月にスタートさせることに集中しており、サブスペ領域への対応は現在なされていない状況である。日本専門医機構から専門医制度新整備指針（第二版）が6月に発表された。第一版との相違点は、①サブスペ学会の専門医研修は、基本領域学会とサブスペ；学会と共同してサブスペ専門医検討委員会（仮称）を構築して行い、機構が確認作業を行う②研修方法はプログラム制とカリキュラム制のいずれか　③サブスペ専門医では、研修施設群の形成は必須ではないという記載内容である。

1）心臓血管外科専門医認定機構

心機構での決定事項、単独型（非連動型）外科専門研修プログラム修了者を対象とした心臓血管外科カリキュラム、外科専門研修（心血重点型）プログラムの修了者を対象とした心臓血管外科カリキュラムということでカリキュラム制の導入、心臓血管外科専門医制度施行細則（Off the Job Trainingと体外循環経験を新規申請条件に追加）の改訂、指導的助手は専門医歴が術者より長い専門医あるいは分野の専門家であることの証明つき症例、Distal Bypass Workshopや血管内治療ワークショップがセミナー該当かOff the Job Trainingかは申請者が決定などが報告された。

2）呼吸器外科専門医合同委員会

呼吸器外科専門医合同委員会の概要、外科領域とサブスペ6領域の検討委員会報告、呼吸器外科の新専門医制度はカリキュラム制、呼吸器外科専門医合同委員会の委員交代の件が報告され、承認された。共通講習（医療安全、感染対策、医療倫理）の講師（非会員）の謝礼の半分は合同委員会で負担することが承認された。

3）食道外科専門医

食道外科専門医は3階建てで、現在200名、認定施設109、準認定施設29施設、申請に際して手術ビデオの提出があることが報告された。

（5）正会員選出委員会

本年度の正会員選出の審査結果（62名選出）が報告され、承認された。また、正会員を魅力あるものにしてはどうかとの意見がだされ、総合将来計画委員会で正会員制度について検討する。

（6）選挙管理委員会

次回の選挙（2018年）は初めてWeb上での投票、次々回（2020年）の選挙は日程を変更して行われる予定である。審議事項として、開票の委員会（開票・集計作業は自動的に行われるため全委員出席は必要なし）開催の件で提案があり、開催条件を緩和することが承認された。

（7）会誌編集委員会

審議事項

GTCS誌に掲載された論文の他誌（和文誌）掲載についてSecondary publicationを参考に審議され承認された。また、副編集委員長の交代（呼吸器外科学会の編集委員長交代に伴い本会の副委員長が交代）、優秀論文賞（心臓2編、呼吸器2編、食道1編：P5下欄参照）が報告され、承認された。

報告事項

第2回議事録、論文投稿・掲載状況、GTCS-Preliminary IF 2011-2016（引用論文Top10のうちAnnual Reportが3編、読者はアジア47%、北アメリカ25%、ヨーロッパ19%の順、現在の仮IFは1.03になったが基準値が変更になる可能性があり詳細を確認すること）、Invited Review Article一覧、Special Edition：Controversies in Surgery for Thoracic Aorta、投稿時Author Comments等に他誌名が含まれていた問題の経緯と対策、地方会及び学術集会でのIF獲得に向けての広報について報告された。また、査読者の質を評価するシステムを作成してはとの意見がだされた。

（8）学術委員会

報告事項

1）2015年学術調査集計状況

呼吸器分野（736施設中714施設から回答）、食道分野（610施設中572施設から回答）は、集計が終了しており、集計結果を確認中である。

心臓分野はNCDデータを用いての初めての集計で、579施設中561施設回答があり、210施設から修正があり、集計作業を進めている。修正データを検証し、次回集計にシステム改修が生じたので見積もり依頼中である。心臓の集計が出来上がり次第、2015年の結果を発表予定である。

2）2016年呼吸器、食道分野の調査結果

呼吸器分野は、744施設中692施設から回答あり、集計作業をNCDに依頼中。食道分野は、603施設中392施設から回答はあるが、未回答施設へ再度回答依頼中。

3）2010年～2014年の5年間の解析結果報告

前回、前々回同様解析結果をGTCS誌に投稿予定であり、論文執筆者について学術委員会委員に確認中。

4）過去15年の集計結果

2000年～2014年のデータ解析を行い、5年ごとに全分野において成績が向上しており、論文化し投稿予定である。今秋の理事長講演内容に入れることを要望した。

5）境界領域の調査

研究・教育委員会で検討するよう要望した。

6）先般のマスコミ報道の件

某施設での心臓手術死亡率が報道されたことは、施設内部からの漏洩であり、今後のデータ入力に関して萎縮傾向がないよう配慮しなければならない。

（9）学術集会委員会

今回の開催概要が報告された。主な内容は採択率73%、2日目はサージカルテクニックセッション主体である、上級演題には今後英語の抄録を依頼、基調講演も英語の抄録を依頼、サージカルテクニックセッションの中からいくつかをCTSNetに掲載する依頼があること、ハンズオンセミナー（心臓だけ）の開催、体外循環ハンズオンセミナーの開催である。また、ハンズオンセミナーについて今後

は研究・教育委員会で計画的に行えるのかを含めて検討するよう依頼された。

（10）倫理・安全管理委員会

報告事項

1）今秋の学術集会における医療安全講習会の企画

9月26日（火）講師は国立循環器研究病センターの松井　健志先生でテーマは「臨床研究等における個人情報の保護」について、座長は志水理事で行う。

2）日本医療安全調査機構

社員総会で約20件が中央での審査があったこと、センター調査の個別調査部会部会員の選任体制についての依頼があり、倫理・安全管理委員会委員を中心に名簿を更新した。

3）会員処分について

本会評議員が収賄罪に関与している件は、委員会でメール審議を行う予定である。

（11）診療問題委員会

審議事項

1）医療機器「Edwards Intuity Elite バルブシステム」の適正使用

上記の依頼が厚生労働省からあり、会員への周知ということで学会ホームページに掲載する。

2）「治験候補薬・治験候補機器」の推薦依頼

大阪大学から日本医師会治験促進センターへ「ヒトiPS細胞由来心筋細胞シート」を推薦してほしい旨の依頼があり、本理事会で承認された。

報告事項

1）再生医療機器患者登録システムに関する検討委員を継続推薦した。

2）DPCに係る国内ICD-11について、役員、診療問題委員に確認し、厚生労働省に報告した。

3）厚生労働省より医療技術評価のヒアリング要望があり、外保連要望項目の２項目についてヒアリングを受ける予定である。

・胸腔鏡補助下弁膜症手術
・脊髄誘発電位測定等加算のオープンステント挿入術への適応

（12）研究教育委員会

報告事項

1）JATS Research Project Award

次年度からの発足を目指し、財源確保が重要としてフェローシップを参考とした企業への寄付金要望書を作成したことが報告された。

2）学会主導全国規模調査研究

学会独自の調査研究を予定しており、調査方法について検討中である。

3）サマースクール

呼吸器外科は7月8日（土）、9日（日）に神戸で開催、心臓血管外科は8月19日（土）、20日（日）にテルモで開催予定である。

4）PGC

呼吸器外科コースの2018年と2019年の中期計画書を策定中である。

（13）広報（Homepage・Internet）委員会

プレスリリースは継続的に行うことに意味があり、2015年の学術調査の結果がでた時点で行う予定である。

（14）定款改訂委員会

役員の再任を1回から2回に改訂した定款は、2月7日に都知事より認証を受けたことが報告された。施行細則の変更では、昨年特別会員の選出条件を変更（年齢を65歳以上、評議員歴を15年以上）したことに伴い、名誉会員の年齢も同様65歳以上とすること、また第52条の選出条件の表現方法を変更することが承認された。

（15）臓器移植委員会

心臓移植・心肺同時移植関連学会協議会報告、7月1日~8月31日までの間に小児の心臓移植施設認定の新規募集の開始、新規施設募集は今年小児で来年は成人の1年置きということである。

（16）チーム医療推進委員会

第70回定期学術集会特別企画テーマは「周術期管理におけるチーム医療」で講師の先生方は了承済み、9月号のNewsletterに上記企画を掲載予定、看護師特定行為研修情報（研修修了者は583名、認定施設40施設等）が報告された。

（17）国際委員会

委員会議事録、フェローシップ選考結果、海外留学現状調査（一次審査）について報告された。フェローシップ選考結果はJATSフェローシップ心臓2名、JATS/AATS Grahamフェローシップ2名、JATSフェローシップ呼吸器3名、食道該当者なし、合計7名であった。（下欄参照）また、海外調査は認定修練施設の代表者に送付した日本から海外への留学者、海外から日本への留学者に関する実態調査で、回収率は38％で留学者は122名、受入留学生は19名で、今後は二次調査及び何らかの形での公表を考慮中であることが報告された。

（18）地方会あり方委員会

グランドデザイン（1. 本会会員は所属する地域の地方会会員とする。2. 地方会会費は本会会費と同時に一括徴収する）について、ホームページでアンケートを実施することが提案され承認された。地方会会員か否か、地方会地区、専門医であるか否か、年齢、本会と地方会会費一括徴収（一般会員13,000円→16,000円、正会員18,000円→21,000円）の賛否を問う内容である。

（19）J-MACS委員会

本年4月からJ-MACS委員会が本会委員会の1つとなり、PMDAから引継いだので、その内容について報告された。今後の課題として、死亡例に対する登録依頼、NCDやJACVSDなどへのデータ入力の整理を検討する。

2．その他

（1）VAD協議会

代表が許先生から、澤先生へ変更となって第1回の委員会が開催され、その議事録が紹介された。VAD協議会に関連してインペラ部会の報告がなされた。

インペラ部会は、厚生労働省から日本循環器学会に適正な使用策定のための依頼があり、関連10団体からなるIMPELLA適正使用指針策定委員会を設置したが、同委員会より、VAD協議会宛に具体的な運用の要望があり、検討を行った。その結果、施設基準を厳格に決め安全性を担保できる施設認定の運用を行うべくVAD協議会の下にインペラ部会を設置することとした。部会長を澤代表として、部会の運営費は学会に紐付け、各学会から委員を派遣し、レジストリーで得られたデータはVAD協議会に属するものである。

1）インペラ部会

9月から保険償還が予定されており、早急に施設認定作業を行う必要がある。適正使用指針案（適応基準、施設要件）が報告され、認定施設は市販後調査が義務付けられている。

（2）外保連分担金依頼の件

平成29年度学会分担金として400,000円の依頼（平成28年度決算書添付）があったので、例年通り支払ったことが報告された。

（3）成人先天性心疾患の横断的検討委員会（坂本オブザーバー）

日本循環器学会を中心に検討されている委員会で移行医療に関する指針の策定が行われたことが報告された。

（4）コンテグラ申請

本年2月にコンテグラ使用基準の一部改訂に伴い、実施施設・実施医の公募（6月9日締め切り）を行い、22施設、34名から申請があったことが報告された。

2017年度 日本胸部外科学会 優秀論文賞受賞者一覧（敬称略）

分野	氏名	所属（当時）	Vol. No.	Title
心臓血管外科分野	佐藤 敦彦	東北大学大学院医学系研究科 心臓血管外科学分野	Vol.64 No.1	A novel biodegradable external mesh stent improved long-term patency of vein grafts by inhibiting intimal–medial hyperplasia in an experimental canine model
心臓血管外科分野	山中 勝弘	神戸大学大学院医学研究科外科学講座 心臓血管外科学分野	Vol.64 No.5	Impact of acquired and innate immunity on spinal cord ischemia and reperfusion injury
呼吸器外科分野	三由　僚	京都大学医学部附属病院 呼吸器外科	Vol.64 No.2	Significance of single lung transplantation in the current situation of severe donor shortage in Japan
呼吸器外科分野	清水 公裕	群馬大学医学部附属病院 外科診療センター 呼吸器外科	Vol.64 No.10	Analysis of the variation pattern in right upper pulmonary veins and establishment of simplified vein models for anatomical segmentectomy
食道外科	山下 継史	北里大学医学部 外科	Vol.64 No.4	Neoadjuvant chemotherapy of triplet regimens of docetaxel/cisplatin/5-FU (DCF NAC) may improve patient prognosis of cStage II/III esophageal squamous cell carcinoma-propensity score analysis

フェローシップ受賞者一覧（敬称略・順不同）

日本胸部外科学会 国際委員会では 2017 年度第 1 回 JATS フェローシップ、並びに JATS/AATS Graham Foundation Fellowship を募集し、審議選考を行いました。受賞者は次の通りとなります。　（日本胸部外科学会 国際委員会）

2017年度第1回JATSフェローシップ　心臓血管外科分野（2名）

白石 修一（新潟大学大学院医歯学総合研究科 呼吸循環外科学分野）

平尾 慎吾（京都大学大学院医学研究科 心臓血管外科）

2017年度第1回JATSフェローシップ　呼吸器外科分野（3名）

宮﨑 拓郎（長崎大学大学院 腫瘍外科）

古川 公之（独立行政法人国立病院機構山口宇部医療センター 呼吸器外科）

加藤 博久（山形大学医学部附属病院 第2外科）

JATS/AATS Graham Foundation Fellowship（2名）

高橋 洋介（大阪市立大学医学部附属病院 心臓血管外科）

吉岡 一朗（東北大学病院 心臓血管外科）

会員各位

通常総会のご案内

通常総会を右記の通り開催いたします。ご出席の方は通常総会案内状を受けた会員に限ります（別途往復葉書で会員へ発送いたします）。
学術集会にご出席の方でも通常総会にご欠席又は出欠が未定の場合は、必ず捺印の上、委任状をお出し下さい。委任状は、議長以外の会員の方を代理人とする場合は代理人の氏名をご記入下さい。代理人氏名記入のない委任状は、議長を代理人としたものとして取り扱います。
なお、昨年の評議員会速記録及び総会速記録は、本会ホームページ（会員専用）に掲載されており、議決を伴う事業報告及び収支決算報告及び監事の選任については、評議員会及び総会において満場一致にて議決されております。

特定非営利活動法人日本胸部外科学会　理事長　大北　裕
第70回日本胸部外科学会定期学術集会　会長　松居 喜郎

日時：2017年9月28日（木）
13：00〜13：50
会場：さっぽろ芸術文化の館 1F
ニトリ文化ホール（Room 1）
〒060-0001 札幌市中央区北1条西12丁目
TEL：011-231-9551

付議事項
1. 事業報告承認の件
2. 決算報告承認の件
3. 役員選任の件
4. その他

＊ご注意：自然災害等の影響で不可避の問題が発生した場合は、開催についての対処を協議し、ホームページ等に掲載しますのでご留意ください。

会員情報の変更は9/18（月）までにお済ませください！

会員証と学術集会参加登録について

会員証を用いて本年も学術集会参加証の発行をいたします。必ず会場にお持ちください。現在お持ちでない、2016年8月5日（金）〜2017年7月31日（月）の間に新入会・再入会・再発行申請された方には、9月上旬より順次お手元にお届けいたします。

会場の参加証発行機に会員証をかざすと、氏名（漢字・ローマ字）、所属などが参加証に印字・発行されます。印字内容は9月18日（月）時点でお届け出の情報に基づきます。変更は会員ページ（https://jats.members-web.com/my/login/login.html）からお早めにお済ませください。なお、会員証・参加証ともに外字（PC環境で上手く表示されない文字）は置き換えて印字されます。何卒ご了承ください。会場では再発行の申請は受付いたしません。下記ご確認の上、別途申請願います。

申請内容	(1)手続	(2)発行
新入会 再入会	不要	7月31日（月）までの受付分は9月上旬順次発送 8月1日（火）以降の受付分は2018年秋に発送
紛失 破損 汚損	再発行料￥3,000（税込）納入 口座： みずほ銀行　飯田橋支店 普通預金　2288186 名義： 特定非営利活動法人 日本胸部外科学会 トクヒ）ニホンキョウブゲカガッカイ ※振込人名を必ず入力 続いて ■納入を終えた旨 ■再発行の理由 記載し会員ページ専用窓口（jats-manager@umin.net）まで申請 破損・汚損した会員証は自身で処分	
改姓 改名	以下を事務局に郵送し申請 ■新旧の姓名併記した書面 ■既存の会員証	
退会	HPの『退会手続』参照し申請　会員証は自身で処分	

お知らせ

日本胸部外科学会 オリジナルネクタイ販売

限定300本

JATSオリジナルネクタイは、27年前、第43回末舛会長がお作りになりましたが、第68回大北会長がデザインを刷新し作成されました。
この度、限定300本を販売いたします。
深みのある紺地に赤・緑・黄のストライプと心・肺・食をイメージしたロゴマークが施されたデザインとなっております。
会員の皆様、学術集会参加の際などに是非おついかがでしょうか！

ご購入手続き　1本…￥3,600（ネクタイ…￥3,240（税込）＋レターパック…￥360）

Step1 代金のお振込み
振込額：1本￥3,600（ネクタイ…￥3,240（税込）＋レターパック…￥360）
口　座：みずほ銀行　飯田橋支店
普通預金　2288186
名　義：特定非営利活動法人日本胸部外科学会
トクヒ）ニホンキョウブゲカガッカイ
※振込人名を必ず入力

Step2 事務局へメール
宛　先：jats-adm@umin.ac.jp（ネクタイ販売窓口）
件　名：JATSネクタイ購入希望・入金完了
本　文：会員番号　T
氏　名　※必ず明記
発送先　※学会登録の住所以外に送付する場合のみ記載

発送は『代金のお振込み』と『事務局へのメール』が共に確認できてからになります。

＊＊追悼＊＊
（日付は逝去日）
2016年7月26日〜2017年7月25日までに届け出をいただいた逝去者一覧：16名

猪野　崇	2015/10/5	谷村 愼哉	2016/8/23	塩川 祐一	2017/3/25	朴　範子	
熊崎 俊英	2016/3/10	上野　明	2016/9/12	片田 夏也	2017/3/31	三木 成仁	
長嶋 一郎	2016/3/27	内藤　稔	2016/9/22	平松 隼夫	2017/4/28	Peason FG	
荻野 紀征	2016/5/9	内田 雄三	2017/1/26	橋本 明政	2017/6/12	Cooley DA	

編集後記

今回の日本胸部外科学会NEWSLETTERは、記念すべき第70回日本胸部外科学会定期学術集会の案内が冒頭を飾る。北海道大学の松居会長が考えられたテーマはクラーク博士の有名な言葉"Boys, be ambitious!"となっている。ただその後に"But stay humble"という言葉が付け加えられている。これはクラーク博士が、"Boys, be ambitious"に続く言葉の最後に"Be ambitious for the attainment of all that a man ought to be"と言っているが、それを松居会長が一言で要約された言葉である。"stay humble"という言葉は、本来日本人が持っている独特の気質であるように思われる。ただ現代社会においてこれを堅持するのは難しいかもわからない。というのはこれだけ情報社会になっている状況の中で、医療機関あるいは医師本人もアピールする場は多くあり、明らかに現実以上に誇張されている例も散見される。そして発信されるこれらの情報に対する正確性が検証されることはない。従って週刊誌のランキング本、SNS等からの情報が氾濫する中で、正しい情報を正確に読み取ることは難しくなっている。特に国民視線から考えるとそれを鵜呑みにするしかない。広報委員長としての私の私見ではあるが、日本胸部外科学会は全国のほとんどの施設からデータを頂いているので、週刊誌が出しているランキング本程度の情報はもっと正確な形で出すことは可能であり、それを行いたい思いはある。いずれにしても各施設、あるいは各個人からの情報の出し方はその施設、個人の品格が出る。"stay humble"と言う言葉は、過度にアピールすることなく、しかし伝えたいメッセージはしっかりと伝えなければならないという、松居会長が投げかけた問いかけであるように思える。

広報委員会委員長　夜久 均

日本胸部外科学会 NEWSLETTER
JUST NOW JATS
No.41
2017年9月10日発行

発行◉特定非営利活動法人 日本胸部外科学会
〒112-0004 東京都文京区後楽 2-3-27 テラル後楽ビル 1F
TEL◉03-3812-4253　FAX◉03-3816-4560
URL◉http://www.jpats.org/

編集◉日本胸部外科学会 広報委員会
E-mail◉jats-adm@umin.ac.jp

デザイン・制作◉株式会社 杏林舎

本誌掲載記事、写真等の無断複写・複製・転載を固く禁じます。©The Japanese Association for Thoracic Surgery